

履 歴 書				
フリガナ 氏 名	フクオカ タロウ 福 岡 太 郎	男 女	現職 職名	福岡大学 非常勤講師
生年月日 (年齢)	昭和 年 月 日 (満 歳) 満何歳かを括弧付きで明記		国籍	
現 住 所	〒810-0023 福岡市...		電話番号: (092) 111-1111 E メール:	
電 話 番 号、メー ル ア ド レ ス も 明 記				
学 歴				
年 月	事 項			
昭和 60 年 3 月 昭和 61 年 9 月 昭和 62 年 4 月 平成 3 年 3 月 平成 7 年 4 月 平成 8 年 3 月	七隈高等学校卒業 高校卒業から書いてください。 ロンドン大学人文学部英語学科留学 (昭和 62 年 1 月 31 日まで) 福岡大学大学文学部英語学科入学 学部・学科も明記 福岡大学大学文学部英語学科卒業 (学士 (文学)) 「同上」とは書かず、繰り返してください。 福岡大学大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程入学 専攻も明記 福岡大学大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程修了 (修士 (文学)) 左の欄の年月日は和暦で書いてください。日にちも書いてください。わからなければ 1 日や 31 日で可。以下、年月日とある場合は同じ要領で。			
学 位 ・ 免 許 等				
年 月	事 項			
平成 2 年 6 月 平成 8 年 11 月 平成 8 年 11 月	高等学校教諭二級普通免許状 外国語 (英語) 取得 (島根県教育委員会 平 2 高二普第 100 号) ←授与機関と登録番号を括弧付けで記述してください。 修士 (文学) の学位取得 (福岡大学 第 100 号) ←授与機関と登録番号を記述 TOEIC 990 点取得 学士の学位取得は書かないで可			
職 歴				
年 月 日	事 項			
平成元年 4 月 1 日 平成 2 年 7 月 1 日 平成 15 年 4 月 1 日	↓ 研究生は職歴の欄に書いてください。 ロンドン大学大学院文学研究科英文学専攻研究生 (平成 2 年 3 月 31 日まで) 中島大学講師 (「エッセイ・ライティング」担当) (平成 4 年 4 月 30 日まで) 福岡大学非常勤講師 (「共通教育英語」担当) (現在に至る) ↑ 担当科目を括弧付きで明記 ↑ いつまでか年月日を括弧付きで明記			
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等				
年 月	事 項			
平成 12 年 6 月	所属学会の記述のみで可 ↓ いつまでか年月日を括弧付きで明記 全国語学教育学会会員 (現在に至る)			
賞 罰				
年 月	事 項			
	なし			
上記のとおり相違ありません。				
平成 30 年 2 月 16 日			氏 名	
			印 印鑑必要。	

研 究 業 績 書

平成 30 年 2 月 16 日

氏名

印

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要 (共著者名等)
著書 1. Error Analysis 2. English Education	単著 共著	平成 14 年 12 月 平成 14 年 12 月	Oxford University Press Longman → 共著の場合は自分の担当箇所を説明する。共同執筆者を書き、自分の名前に下線を引く。	総頁数 123 頁 概要とあるが、内容のまとめではなく、ページ数や共著の場合の共同執筆者を書く。 総頁数 123 頁中、第 3 章 (20 頁) を担当 福大一郎、 <u>福大太郎</u> 、福大二郎 他
学術論文 1. Demonstratives in English 2. Cleft Sentences	単著 共著	平成 15 年 6 月 平成 22 年 12 月 (印刷中) ↑ まだ出ていない場合は印刷中や受理済みと括弧付きで記述。	日本英語学会 English Linguistics 第 3 巻 審査のある学会誌などは下線を引く。巻数や号数も明記。 ○○大学紀要○○論叢第 35 巻第 1 号	総頁数 23 頁 総頁数 26 頁 福大一郎、 <u>福大太郎</u> 、福大二郎 他 ↑ 共著の場合は、共同執筆者を書き、自分の名前に下線を引く。
その他 学会発表 1. Cleft Sentences 2. Teaching of the Pronunciation 書評 1. Motivation and Attitude	単独 共同 単著	平成 16 年 6 月 平成 17 年 3 月 平成 17 年 6 月	第○回日本英文学会全国大会 (○○大学) 第○回日本英文学会全国大会 (○○大学) ↑ 学会の開催回を書き、括弧で開催場所を書く。 イギリス文学会○○文学 第 50 号	福大一郎、 <u>福大太郎</u> 、福大二郎 他 ↑ 共同発表の場合は、共同発表者を書き、自分の名前に下線を引く。 総頁数 27 頁
著書、学術論文の順で記述。その他として学会発表、書評、翻訳など。修士論文は書かない。書きたければ、最後に「参考」という項目として挙げる。博士論文は論文の項目として挙げる。		著書・学術論文は単著か共著か、学会発表は単独か共同かを明記		

教 育 業 績 書

平成30年2月16日

氏 名

印

教育上の能力に関する事項	年 月	概 要
<p>1 教育方法の実践例</p> <p>(1) ペア・ワークとグループ・ワーク</p> <p style="color: red;">どのように授業を行なっているか、その特色を記述してください。ここに挙げた以外に、小テストの実施、ミニッツ・ペーパー、マルチメディア・インターネットの活用などが考えられると思いますが、自分が授業で行っている工夫なら何でもいいです。</p> <p>(2) ジャーナル</p>	<p>平成元年4月 (平成4年3月まで)</p> <p style="color: red;">↑ 年月を和暦で。</p> <p style="color: red;">括弧でいつまでかを明記</p> <p>平成7年4月 (現在に至る)</p>	<p>なかなか積極的にコミュニケーションしようとする日本人学生に口を開かせるためにまず大事なことは環境づくりである。学生同士で助け合って問題をクリアさせることで安心して取り組み、間違えることを恐れない環境をつくる。学生たちにペア、あるいはグループを組ませ、一つの課題（会話練習、聴き取り、スピーチ、ディベート、ロールプレイなど）を与え、解決するように持ってゆく。その上で、指導を行い、レベルアップを図ってゆく。</p> <p>授業が終了すると、次の授業までにその回の授業を振り返ってジャーナル（日記、日誌）を書くよう指導している。このことで学生は授業で学んだことを反芻し、しっかりと身につけることができる。また、これは同時に自分の授業へのフィードバックにもなり、自分の授業の反省をこちらもすることになる。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>Listen to Me (Level 1) Listen to Me Too (Level 2) Listen to Me (Level 3)</p>	<p>平成15年4月 (現在に至る)</p>	<p>福岡大学で必修科目として英語を履修する学部生向けのテキストである。Listen to Me (Level 1)はベーシック・イングリッシュ・クラス、Listen to Me Too (Level 2)はインタミディエイト・イングリッシュ、Listen to Me (Level 3)はアドバンスト・イングリッシュに対応している。</p>
<p>3 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価</p> <p style="color: red;">無記入で構いません</p>		
<p>4 実務家教員についての特記事項</p> <p style="color: red;">無記入で構いません</p>		
<p>5 その他</p> <p style="color: red;">無記入で構いません</p>		